



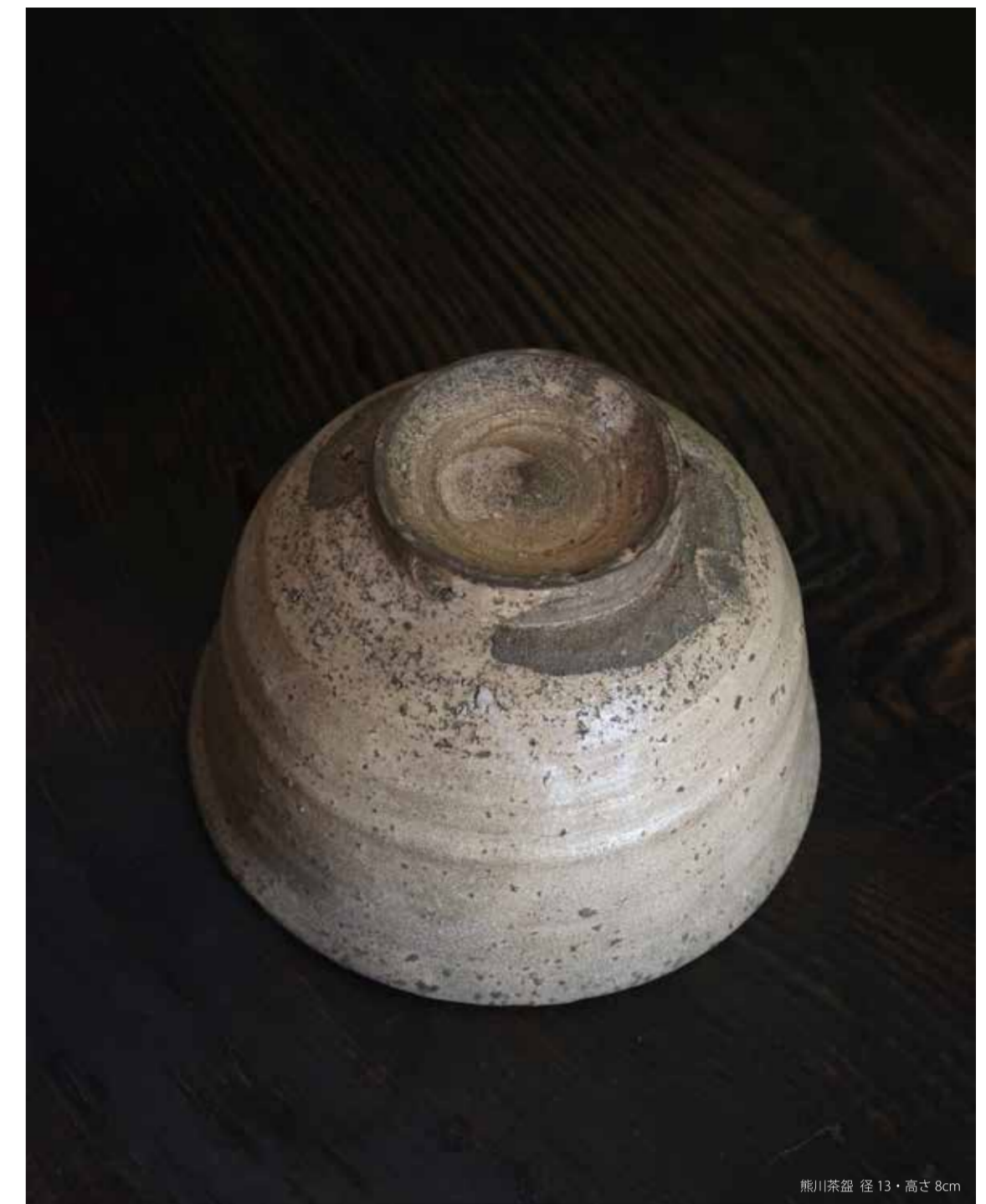
龍雲茶碗 径15・高さ7.5cm



青磁王子形水瓶 径10・高さ20cm



古井戸茶碗 径15・高さ8cm



瀬川茶碗 径13・高さ8cm

# SHINTARO UCHIMURA EXHIBITION “WABI-SABI STRAIGHT FLUSH”



粉引辰桜花入 径13.5・高さ21.5cm



古井戸茶碗 径15・高さ8cm



秋草手蓮取花入 径9.5・高さ18.5cm



瀬川茶碗 径13・高さ8cm

福岡県糸島市で茶陶に取り組む内村慎太郎さんの弊店初めての展覧会になります。ご覧の通り李朝、唐津などの古陶磁の流れを汲む侘数寄には堪らないやきものです。どちらかと言うとコアな茶の湯のやきものを積極的に取り上げることは避けて来たのですが、やはりここに日本的解釈の美が根差していることも事実であり、抗えない葛藤を素直に認めたくて、内村さんのやきものをご紹介したいと思いました。いわば「侘数寄」のストレートフラッシュとでも言いましょうか、やきもの役割となるドセンターをこの場に並べてみたい気持ちの方がよくよく形になります。内村さんは高専で土木を学び、卒業後は橋梁を作る仕事をしていました。橋梁工事は組織で多くの人が関わり何年も時には何十年もかけてようやく完成する壮大な仕事です。一方でやきものは一から十までひとりですべてで完結できる身の丈の尺度で測ることのできる仕事です。やきものに興味を持つ前にはデンマーク家具職人にも憧れた頃もあると聞きまして、何かを作りたいという思いは、橋梁のような大きな建造物から自分自身の手による造形物へと徐々にシフトしていったのでしょう。古典的なやきもの

に向き合いながらも代々続くやきもの家系ではなく、あくまで自覚的に選んだ道ということも忘れてはなりません。まずは陶芸教室で基礎を学び、やがてスタッフとして働き、自ら陶芸教室の開設やカフェを併設したギャラリーも運営した経験もあるそうです。李朝や桃山茶陶には唐津の曹源堂 小島直喜氏のものに通うことで基礎的な技術を身に付けました。しかし肝心なのは桃山や李朝の古陶磁への憧憬が強かったからでしょう。順当に修業を積み重ねたというよりも、自らの心を揺さぶる茶碗に近づくために、独学による結果から逆算した帰納的アプローチがこれらの侘数寄の風合いを生み出しているのです。脱サラをしてはじめてなので好きを貫きたい。山居窯を名乗るご自宅の工房を訪ねた際は嵐爽と自らお茶をたててくれる際にお聞きした言葉です。観念的思想よりもむしろ「数寄」を先立たせる覚悟なのでしょう。あの時の内村さんの思いが今展を通して皆様へ伝わることを祈っております。どうぞご覧ください。

店主

料金後納  
ゆうメール

## 内村慎太郎展 侘数寄ストレートフラッシュ

2024年7月6日(土)～13日(土)

作家在廊日 7月6日

11:00～18:00 最終日は17時迄

ギャラリー うつわノート  
埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
TEL 049-298-8715  
MAIL utsuwanote@gmail.com



### 略歴

1975年 鹿児島県霧島市龍湧水町に生まれ  
1995年 国立鹿児島工業高等専門学校卒業  
橋梁設計に従事後、古陶磁に惹かれ娘物の道に入る  
2002年 福岡県糸島市に工房を開く  
2008年 曹源堂小島直喜氏に師事  
2008年 工房を移し、山居窯開窯  
2024年 現在 福岡県糸島市にて制作

## 内村慎太郎展 侘数寄ストレートフラッシュ

2024年7月6日(土)～13日(土)

作家在廊日 7月6日

GALLERY  
うつわノート